HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「生活白書」の構想
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Citation	総合開発, 2(3), 20-25
Issue Date	1952-04-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77289
Type	journal article
File Information	X024_015.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「生活白書」の構想

鈴木榮太郎

(一)

人間生活の全領域を組織的に表現する事はそんなに容易に出来る事ではない。特にその全領域を過不及なく同じ深度で観察しそれを組織的に再現すると云ふ事になるとそれは至難な事である。人間活動の全領域を観察する場合には凡そどんな事項について観察したらよいものであるか、そんな事項の必要にして充分なものはどんなものであるか、それを列挙して示して居る人はない様である。あるとしてもそれが世の通説とされ一般の調査や研究に実用化されて居る様なものはない。

文化と云う語は従来甚だ多義に用いられて来たが、今日の社会諸科学では文化とは人間生活の型と云う程の意味に用いて居ると思う。人間活動のあらゆる型が文化である。そんな人間活動の型は民族毎に異なり又時代毎に同一でない。文化はあらゆる人間活動の型であるから政治でも経済でも教育でも皆それぞれの文化を持つて居る。文化厚生部会などと云うのはその意味からすれば無理な語法で、厚生も文化の一部門である。文化が人間活動のあらゆる方面に於ける型であるなら、文化の分類は当然に全人間活動の分類となる訳である。従来多くの学者が文化の分類を試みて居る。それ等の文化の分類が人間生活の分類となつて居るのは当然である。けれども従来の文化分類論は人間生活の全般的領域の具体的な研究や調査の為に実用的な観察項目を設定する迄にはまだまだ程遠いようである。

人間の日々の生活は甚だ多方面の生活を含んで居るが、その事は人間がその多方面の生活の各々に関心を持つて居る事を意味する。生活の面が多ければ多い丈、少なければ少い丈、生活の面に即応して人は関心を持つて居る。故に若し凡そ人の関心の向うところが何であるかを分類する事が出来れば、それも亦生活する側面の分類となり得るのである。多くの学者が人間関心の分類を試みて来た。然らばそれも生活の側面の分類となり得る筈である。けれどもこの人間関心の分類も文化の分類と同様に、一応分類したと云う迄で、現実の人間生活の観察には何の役にも立ち得ない。

凡そ文化も人間関心も時代と民族によつて異つて居るものが多い。何れの時代にも何れの民族にも適用出来る様な文化の分類や人間関心の分類は甚だしく自明の事柄である。それは現実の社会的事実の科学的処理には何の役にも立たぬ。現実の事実の科学的処理に役立つ程の分類は甚だしく個性的である。

一国民のあらゆる方面の生活を悉く現わす一方法として当時其国民の大多数であつた農民の家族を若干選出しそれ等の農家の一年間の歳入と支出を綿密に調査すると云う方法をとつた学者がある。国民の大部分を占むる農民の一家の家計簿をよく調べて見ればその農家の人々の色々の方面に於ける生活の有様がよく判る、国民の大部分は大体皆それと同じ様だと見得るからそれをその国民の大体の生活内容と見る事が出来ると云うのである。この推断には二つの大きな無理がある。人の生活の内には金銭には現われない方面も相当にあるし、又金銭の多寡が生活内容の多寡を現わしても居ない。次に国民の大多数が農民であるから農家の若干によつて国民全部を代表せしむると云う事にも無理がある。然しこの方法は色々の有益な暗示を含んで居る。

北海道民の生活を其何れの分野も過不及なく網羅し同じ深度に於いて観察し再現する事はたしかに容易の事ではない。生活の内比較的重要と思われる方面のみを拾い上げると云う便宜にして曖昧な方法を用いるなら別に苦労はない。けれどもそれでよいであろうか。抑々比較的重要と云う事も簡単ではない。

地方史郷土史と名付けられるものは戦後の悪い出版事情の中にも年々全国的に見れば相当多数上梓されて居る。これ等の地方史に於いても意図されて居るところは、そこの住民の全生活領域に亘つてそれぞれの時間的変遷のあとを示す事である嘗て歴史は王侯貴族の私事の記録や政治や戦争の記録を中心として居たが、今ではどんな小さな歴史的編纂に於いても民衆の生活内容が如何に推移して来たかと云う問題に焦点を置かうとして居る。然しこゝでも民衆の生活は充分に整理されては居ない。地方史の記載には今では大体の型が出来て居るが、それは結果に於いて必らずしも民衆の全生活の発展史とはなつて居ない。主として資料による制約にもとずくものと思われるが、然し人間生活の全領域を如何に配列するかについての根本理論が充分でない事に最も多く起因して居る事は勿論である。

「北海道民生活白書」は北海道民の現在の生活全般の組織的表現であるとしたならば、そしてそれに科学的厳格さを期するとなれば、以上述べて来た様な次第から考えても容易ならぬ事であるが今こゝに「北海道民生活白書」に何が一般に期待されて居るかを初めから考えなおして見ると少しく角度をかえて考える必要がある事が判る。そこに期待されて居るのは北海道民の生活全般の表現には違いないが、然しこれは北海道誌でもなければ其要約本でもない。それは道民生活の特殊性、道民生活の位度を明らかにする事である。道民生活の特殊性及び道民生活の位度を明らかにする為にも生活の全般に及ぶ可き事は勿論である。がそこには自ら程度があり方向がある。少くともそこでは生活の何れの方面も同列に配列される必要はない道民はどんな特殊な自然的社会的環境の内に置かれ国内他地方の人々と比較してどんな特殊な生活の型を作つて居るか、どの程度の暮し方をして居るか、それは経済的に又は所謂文化的にどの程度の水準にあるか、そんな事を鮮やかに表現する事が望ましいのである。要は北海道民の文化の型文化の水準を相対的に鮮やかに表現する事が期待されて居る。「北海道民生活白書」にそんな期待が充分に果たされて居るとは思えないが、その構想には次に述べる様な諸点は考慮されて居る。

(二)

「北海道民生活白書」は北海道民の全人口に関するものでなければならぬ。全道民の中には明らかに生活の型も異なり利害関係も余り一致して居ない様な様々の種類の人々が含まれて居る。この多種多様の人々を何等かの観点から一応大体に分類し整理する事が出来れば取扱いに甚だ便利である。どんな区分が可能であるか、又特に此場合最も有効な分類は何であるか。人口の一番基礎的な分類は性別年令別の分類及び行政区域別分類であるが、然しこれ等のものは生活の型や生活水準の程度に関聯をもつ部類別としてはそれ程直接に有用ではない。例えば同一市町村に於ける同一年齢の同じ性の者でも、生活の型や程度は著しく相異つて居る場合が多い。生活の型や程度に決定的な関係をもつて居るものは、明らかに右の様な条件ではない様である。

人の生活の型や程度はその所属する家族の社会的条件に最も多く左右されて居ると思われるが、かくの如き社会的条件としては、職業、職業上の地位、富の程度、家族の教育の程度、等が考えられる。其居住地が農村であるか都市であるかと云う事も生活の型を決定する上に有力な条件であるが、然し大体に職業が居住地を決定して居ると見られる。地方的個性と云う事も大規模には考えられるが、然しそれは行政的地区とは関係なきものである。社会大衆とか民衆とか云う語は、それ等の人々の外に少数の特権的階級の存在を予想し、此二つの人口群毎に異つた生活の型又は利害関係がある事を意味して居る。此等の語は政治的用語で元より正確な内容を持つものではない。然し一般に社会成層の存する事は事実であり、そこに生活の型や程度の相異が見られる事も明らかであるが、かくの如き社会成層は主として職業上の地位に関連をもつものと思われる。

生活の型と云はず程度と云わず人事百般につい

ての大量的観察の爲には、その總人口を色々の角度より分類し様々の種類の組成を作つて見る事である。然しその内最も暗示に富むものは職業別人口構成である。それは性別年齢別人口構成の上に構成されて居なければならぬ。同様に取得階級別人口構成、教育程度別人口構成、配偶者有無別人口構成、居住年数別人口構成、等に様々のものがあり得る。人事百般の大量観察に人口構成は予示的役割としてたしかに有効である。

人口構成は人事百般の観察に右の様な役割を果し得るものであるが、人口動態現象はこれも亦人事百般の總合観察には重要な役割を果し得る。人口動態現象は所詮は生命の現象であるから、そこに人事百般の結論的な現象が示されて居るのは当然である。例えば或る人口組成に於いては、人の平均寿命は何年となつて居るか、それは他と比較してどうか、年次的発展に於いて特に近年はどうなつて居るか。この人口組成に於いてはどんな死亡原因が多いか少いか。自殺他殺其他不慮の災害死は他に比してどうであるか。無理な烈しい生活が営まれて居るところであるか、平和な安定した生活の営まれて居るところか、兎に角厳然たる一つの結果がそこに示されて居る。婚姻、離婚、出生等何れも生活の結論的なものを示して居る。

人口構成を序論に用いるなら、人口動態を結論に用いる事が出来る。そしてその中間に人事百般を色々の観点から観察したものがある。

(三)

国民生活の内で経済的生産に関する活動を大局的に眺めて其国民社会に於ける機能や配置等を考料する様な場合にはそんな経済的な国民活動を産業と云う語で表わすのが適当であるが、その産業に従事して居る従業員の側から見れば職業である。生計の資を得る爲の職場である。国民経済の円滑と隆昌を期する爲に色々産業について計画し考料するのは政治する人の任務であるが然し一般従業員には産業は直接には問題ではない。一般従業員即ち所謂国民大衆の実質的内容をなして居る人口は只職場として生計費を得るところとしてそこに所属して居る。巨大な近代的企業体の構造や運営の中に占むる一人一人の従業員の役割のどんなに小さいものであるか、彼等は自らよく知つて居る。だから彼等は自分の所属して居るその巨大な企業体について考えようともしなければ又その機会もない。彼等は企業体そのものとは随分遠い距離にある。彼等が唯望んで居る事はそこで得て居る自分の月々の給料が少しでも多くなる事である。自分が養つて居る何人かの家族の生活を少しでも豊かならしむる爲に少しでも多く收入の増す事である。

農業者でも漁業者でも自分の生産的活動について直接に意図して居る事はそれによつて其一家の生計を維持する爲にそれによる所得が安定し少しでも増加して行き暮しが少しでも楽となる事である。売り渡したその生産物がその後どう処分されるか知る由もなく知ろうともしない。

生産活動を産業としてみる見方と職業として見る見方とは別であつて、政治する立場に於ける見方は前者であり、国民一般が事実日常の生活の内に持つて居るのは勿論後者である。にも拘らず産業の声のみ高く職業として見る見方は甚だ軽視されがちである。一つの企業体の活動はそこで何がどれ丈生産されるかよりもそこで何人にどれ丈の給料が支払われて居るかそれによつて何人の生活が維持されて居るか、その事がもつと重要な事であるに相違ない。産業も政治も所詮人が生活する爲のものであり一人一人の生活を少しでも幸福にする爲のものに外ならぬからである。

人の生活の全域に亘る事情を明らかにする事を企図して居る「生活白書」に於いて人の生産活動の部分が余り深く取扱われて居ない事には、上の様な理由の外にも色々の事情がある。産業に関する事即ち生産に関する事は「経済白書」が別にあると云う事も決定的な事情の一つではあるが、生活の本拠は生産生活よりも消費生活の中にあると云えば云い過ぎかも知れぬが、従来消費生活の部分を過分に軽視し必要以上に生活水準を低下させて居たのではないかと思われるので特に消費生活の検討に力を入れる必要があると云う心組みも存して居る。

開道以来道内の産業の発展の爲には国の中央よりも絶えず積極的な指導が試みられて来たが、その産業に従事する人々の生活の指導即ち衣食住の指導換言すれば消費生活の指導については殆ど放任の形であつた様である。住宅の問題にしても一家の收入が増すようになれば住宅も自ら銘々で何とか工夫して改善して行くであろうと云うのが指導者の言分であつた。寒地住宅にはどんなものがよいかと専門の建築家達が今日でも盛んに研究して居られる様であるが仲々容易な問題ではない様である。それを個々の開拓農家に銘々で工夫せよと野放した訳である。暖地より移り住んで来た様な開拓民の中には北海道の厳しい風土に衣食住する工夫に拙劣であつたと云う事只それ丈の爲に斃れた者も多くあつたであろう。生産の指導には積極的でも消費の指導には全く熱意がないと云うのが敗戦するまでの政府の方針であつた。娯楽や教養に時を過す事は罪悪ででもあるかの様に考える風潮さえもあつた。娯楽とか教養とかは庶民には少し遠慮しなければならぬものであるかの様に思われて来た。徳川時代には当時の大農政学者であつた佐藤信淵ですら百姓をよく働らかす爲に祭の時にはよく遊ばしたがよいと書いて居る。つまりよく働かす爲にのみ娯楽の存在理由もあつたのである。当時の爲政者達は百姓を云はば農産物を生産する労働力としてのみ評価して居たのである。明治になつてからでも国民の多くはやはり単に労働力としてのみ見られて居る場合が少くはない。

どんな生活改善計画も生活の基礎である職業生活が不安定であれば正に砂上の楼閣に終る事は勿論である。国民の生活安定の基礎は国内に産業を興し職場を与える事である。正にその通りである。人間生活の本領は生産生活即ち職業生活ではなくして寧ろ消費生活の中にあると主張する人も職業生活が人間生活の基礎又は不可欠の条件である事は勿論認めざるを得ない。然し国に産業の振興があつて国民生活の隆盛も期待されるのではあるけれども、産業振興策が余り行きすぎて国民の生活より遊離し過ぎては国民の爲に反つて不幸である。富国強兵を国是の様にして居た戦前の日本の国策は盛んに産業を振興し国民に職場を与え勤倹力行の道を教えた。かくして国民は甚だしく低い生活水準の中に国の富を積み国力を養つた。民は疲せても国は富んだ。敗戦に終るまで続いたかくの如き国の方針の下に国民は消費生活特に家庭を中心とした娯楽教養の生活を過小に評価する様になつて来たのではないかと思われる。故に生産生活を軽視する訳では少しもないのであるが、従来過小評価されて来た消費生活を充分に考料する事は民主国として新らしく出発する現下の日本人には特に必要な事の様に思われる。

国が向上する事は一人一人の国民の生活の生活水準が高まる事である。国民の教養の水準が高くなる事である

開拓農民に土地を与え生産用具を世話してやる事は最小限度に必要な好ましい政治的措置である。然し風土の著しく異つた暖地から移つて来た様な開拓民には衣食住の仕方衛生休養娯楽の仕方についてのよい指導を与える事も同様に望ましい政治的措置である。

農村と云えば農産物が生産されるところとのみ考えて居る人は今でも多い。農村は人間が生活して居るところであると云う事が忘れられて居る。

北海道についても同様な考え方を持つものは多いのではないかと思う。北海道を色々の資源と労働力のあるところとのみ考える。人間が生活して居るところである事を忘れて居る。「生活白書」は北海道の労働ではなく北海道の生活を示さなければならぬ。

(四)

生活位度を正確に相対的に現わす事は容易でない。異民族間の生活位度を評価する事は殆ど不可能である。それは日本画と西洋画を比較する基準は無いのと同様の事情からである。日本画の最高のものは西洋画の最高のものと甲乙はつけがたい。東洋の貴族の生活と西洋の貴族の生活と比較して何れがより高い生活位度にあるかを決定する事は困難である。何れがより高い文化位度にあるかを見分ける事も同様に困難である。

パンを食う事と飯を食う事と何れが高い文化を持つて居るか、それは決定出来ない。ダンスやキツスやルージユは我々から見れば高い教養のある民族の風習とは思えない。動物的習性に近い野卑な習俗としか思えない。然し疊の上に坐したり寝たりする日本人の風俗は西洋人には椅子やベツトを使う文化より一段下の文化の様に見えるのであろう。

世界各国の文化を一律に評価し得る共通の価値の体系はあり得ないのかも知れぬ。けれども例えば住居文について考えて見ると、赤土をねりかためた丈の室、それも方々に割れ目がある様な室に居住して居る或る民族の人々の生活と、巧妙な建築技術によつて建てられて居る室、その室の到るところが美術品によつて飾られて居る塵一つない家に居住して居る別の民族の人々の生活とには明らかに生活位度の上下が認められる。又殆ど文字を解せず一日中を殆ど労働と飲食と睡眠に過して居る人々の生活と多くの国語を解しラヂオ新聞等により絶えず全世界の報道を知り、文学や音樂に深い関心をもつて安定した生業をもつて生活して居る人々とは明らかに文化程度の上下を認める事が出来る。飯とパンの相違の如く型の相違の爲に比較出来ないものもあるけれども、科学や技術や芸術をどの程度までとり入れて居るか、その程度による品度の相違もあることは認めざるを得ない。科学は今日世界で一番進んだ知識と技術を含んで居るものであるから、それをどの程度生活の内に取り入れて居るかは文化の程度を知る一つの指標となり得ない事はない。要之異民族間の文化も生活程度もそれを比較する事は決して不可能とばかりは云えない。

けれども文化位度にしろ生活位度にしろ問題なく容易に比較し得るのは同一文化の組織内に在る人々に於いてである。北海道の文化又は生活を東京のそれと比較し評価する事は容易であるが、北京又はシカゴのそれと比較する事は甚だしく困難である。

生活水準の外に生活標準が考えられるのは当然であるが、生活標準の外に教養水準を考える事も出来る。高い教養を持つて居た仏者の中には低い生活標準を持ち事実生活水準は更に低い人も多数あつた様に思う。然し生活標準は全く主観的のものでこれを測定する事は甚だ困難である。けれども生活水準や教養水準は客観的事実として測定出来る筈である。

米国に於けるソシオメトリーの方法はたしかに有効な一つの方法と思われるが民族文化の体系が異る毎に観点や尺度の異つた測定基準を作る事が必要である。日本人に一般に適用されるソシオメトリーの教養水準竝びに生活水準測定基準は未だ工夫されて居ないので私等がこゝで立案した基準はその初めての試みである。此基準を用うる事によつて現時の日本民族なら九州に於ける生活も関東に於ける生活も其生活水準と教養水準を何人によつても測定され得る筈である。けれどもこの基準によつては、朝鮮人や中国人その他欧米人などは測定する事が出来ぬ。日本人とは異つた文化の型を持つ人々であるからである。

(五)

北海道民の生活が他府縣民の生活に比して高いか低いか、安定して居るかして居ないか、より幸福と思われるかより不幸と思われるか、有利であるか不利であるか、総てこれ等の問題は政治する人々丈の関心事ではない。道民の生活が他に比して余りに不利であり不幸であるならば道民はその打開の方策を考える事が必要である。北海道丈は今日他の府縣に比し歴史的にも地理的にも明らかに特異の立場にある。故に北海道丈が特に有利な場合もあり不利な場合もある。であるから道民は自己の立場を常に見守つて居る事が特に必要である。北海道の平安と発展を積極的に念願する者は矢張り道民以外にはない事も常に心に銘じて置くべきである。

北海道を今尚お植民地か出稼地の様に考えて居る人も少くない。それは道内にもあり道外にもある。やがて帰る可き故里を内地に残してこゝでは何事も一時凌ぎに出稼生活をして居るのだと心得て居る人もある。そんな人の生活の本拠は故里で営なまれるのであつて、こゝでは云わば唯労働があるのみである。それは云わば漁村の雇戸の生活開拓地の居小屋の生活である。或る時代の北海道民の生活は大部分そうであつた。然し今では大部分の道民にとつてはそうではない。開道以来既に80年、二世も三世も四世もあり得る。今ではもう大部分の道民にはこゝが唯一つの故里である。生活の本拠は他にはどこにもない。こゝはもう単なる労働の地ではなく生活の地である。健やかな独自の文化が成長しなければならぬ生活の地である。その事を自他共に確認する爲の資料としても「生活白書」は役立たなければならぬ。

戦後多数の人口が急激に道内に流入して来た。全国的に戦後人口稠密度が俄かに上昇したので最も稀薄な本道内に多数の人口が流入して来たのは当然の事である。そして流入して来た人口は殆ど皆云わば敗惨者的人口である。これ等の敗惨者的人口導入によつて在来の道民の受ける程度の国民的負担は新らしい日本の創建の爲に道民もしのばなければならぬ。然しそうでなくてさえ既に他府縣と比して生活の諸条件に恵れて居ない道民が、この場合において若しも不当に犠牲を蒙り更に生活を低下させる様な事があつてはならぬ。「生活白書」には此等の戦後の急激なる人口増加の事実とそれをとりまく様々の施設等に関して特別の配慮が加えられなければならぬ。

この如き事情に在る北海道としては社会保障制度の整備は特に必要である。それは特に国家の責任に於いて行わる可き特殊の事情もある。道外の人口を道内に送り込む場合も道内の資源の開発を試みる場合も、こゝで生活して居る国民の生活の平安と発展にそれがマイナスにならないかどうかを絶えず注意する事は道政に参与する者の断じて忘れてならない事である。

(総合開發委員、北大教授)

(10頁から續く)

職業補導所は、失業者・新規学校卒業者その他技術修得を希望する人に対して、短期間に必要な技術の補導をして生産の増強を図ることを目的としているが、昭和27年4月現在公共職業補導所は9ケ所、その補導種目は下記の如くである。

補導所名	種目	人員	補導所名	種目	人員
札幌	建築	40	北見	建築	30
	木工	40		木工	50
	機械	40		機械	50
	自動車整備	50		計	130
	タイプライター	40	十勝	建築	50
	板金	30		木工	50
	金属塗裝	30		電氣	30
	計	280		塗裝	30
				計	160
函館	熔接	30	室蘭	機械	50
	内燃機関	30		自動車整備	30
	計	60		計	60
	建築	50	宗谷水産	水産加工	50
	木工	50	釧路	内燃機関	40
	印刷製本	50	釧路炭鉱	電氣	30
	計	150		合計	960

特に札幌・函館・旭川・北見・十勝の各補導所では電氣・印刷・経理事務・謄写・簿耕・機械・編物・洋裁自動車整備・ラジオ修理の九種目延十三種目の臨時職業補導を実施している。

また、共同作業所は昭和24年以前の国費補助によるもの12ケ所24年以降26年末まで道費補助によるもの35ケ所を数え著々その成果をあげている。

以上は公共施設についてのみ略述したのであるが、このほか民間の施設として企業直営による福祉施設、労働組合による福利施設がある。企業直営の福利施設は事務局調査研究第21号の報告内容によると、調査事業所全体における福利施設の設置率は91%と極めて高い。福利施設をもつ事業所の内容をみると住宅施設の設置率が最も高く、次いで診療衛生保育施設、教養娯楽体育施設で経済施設が最低である。しかし、福利施設は本道においては労働者の生活安定上欠くべからざるものであるから、これら施設の内容設備が充実されなければならない。